

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.3

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

茎数少ない！浅水管理で分けつの発生促進を

1 気象経過と生育状況

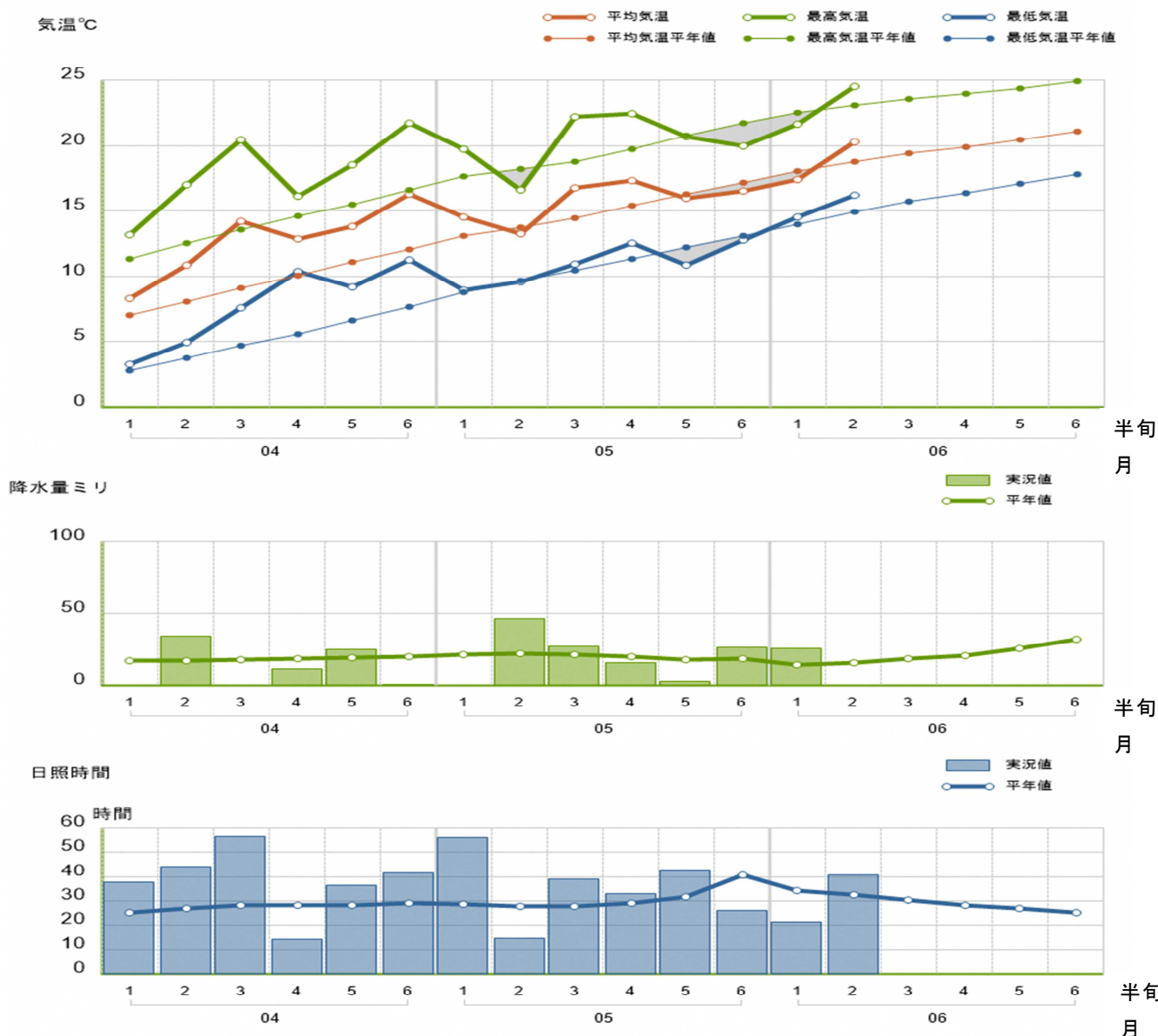


図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

〈概況〉

管内の田植盛期は平年並の5月18日でした。6月10日の定点調査結果(あきたこまち)は、茎数が141本/㎡(平年比87%)、草丈は25.4cm(平年比97%)、葉数は6.7葉(平年差+0.2葉)でした。移植後の強風による代枯れや低温の影響を受け、生育が停滞したほ場が多く、茎数の増加が抑制されたと考えられます。茎数の少ないほ場では、浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。

表 水稻定点調査結果(6月10日調査)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
栽植密度	19.3株/㎡	104%	108%
草丈	25.4cm	97%	94%
茎数	141本/㎡	87%	87%
葉数	6.7葉	+0.2	+0.1

※ 管内定点ほ場10地点(あきたこまち)の平均値

2 異常還元(ワキ)に注意し、適切な水管理で分げつ発生促進を

茎数の少ないほ場では、分げつの発生を促進するための浅水管理を行いましょう。日中に水温と地温を高めて温度差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行います。

また、表層はく離やアオミドロ等の発生が多くなると、水温や地温が低下し、生育が抑制されます。対策として、気温の低い早朝や雨の日に水の入替えを行いましょう。

ワキが発生しているほ場では一時的に落水し、ガス抜きをして稲体を健全に保ちましょう。

3 目標茎数を確保したら、無効分げつの抑制を

あきたこまち(目標収量 570kg/10a)の目標穂数は 440 本/㎡です。目標穂数と同じ茎数を確保したら、中干しや深水管理により分げつの発生を抑制します。中干しの実施期間は 7～10 日程度とし、幼穂形成期(7月 15 日頃)前には必ず終了します。

<茎数 440 本/㎡の目安>

- ・70 株/坪植え……1 株当たり約 20 本
- ・60 株/坪植え……1 株当たり約 23 本
- ・50 株/坪植え……1 株当たり約 28 本

4 病虫害防除は適切に実施しましょう

①いもち病

余り苗で発生したいもち病は周辺ほ場への強力な伝染源となるため、余り苗は水田内に埋めるなどして直ちに処分してください。オリゼメート粒剤(2kg/10a)及びルーチン粒剤(1kg/10a)の散布適期は移植栽培で 6 月 15 日頃(6/12～18)、直播栽培で 6 月 23 日頃(6/20～25)です。



②斑点米カメムシ類

5 月 28 日に病虫害防除所から発表された令和 6 年度農作物病虫害発生予察情報発生予報第 2 号によると、斑点米カメムシ類(第 1 世代)の発生時期は早い、発生量が多いと予想しています。本県の主要種であるアカスジカスミカメは水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するため、斑点米被害を回避するためには水田内雑草を確実に防除することが重要です。

中・後期除草剤の使用に当たっては、草種や生育程度を観察して効果の高い剤を選択するとともに、散布適期を逃さないようにしましょう。

5 熱中症対策を万全に

この時期はまだ暑さに身体が慣れていないため、熱中症のリスクが高まります。のどが渇く前に水分補給を行い、同時に塩分も摂取しましょう。少しでも不調を感じたときは無理せず休むようにしてください。

県(水田総合利用課)の情報発信 LINE アカウントをご活用ください!

* 県内の水稻生育状況
* 水稻・大豆の技術情報
* 異常気象対策 など
様々な情報が発信される予定です。



友達登録はこちらの
QR コードから!

◇次号は6月 27 日頃の予定です。